

川湯温泉地区景観整備構想

検討業務 報告書

平成29年12月

弟子屈町

— 目 次 —

1. 景観整備構想策定の目的	1
(1) 景観整備構想策定の目的.....	1
(2) 対象範囲.....	1
2. 与条件の確認・整理	2
(1) 上位計画.....	2
(2) 関連計画.....	2
(3) 自然条件.....	3
(4) 人文・社会条件.....	3
(5) 観光資源及び利用施設の概況.....	4
3. 川湯温泉地区景観整備構想	10
(1) 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトにおける地区の位置づけ.....	10
(2) 川湯温泉地区の現状と課題.....	13
(3) 整備方針.....	15
(4) 整備構想.....	18

1. 景観整備構想策定の目的

(1) 景観整備構想策定の目的

阿寒摩周国立公園の東側に位置する弟子屈町は、摩周湖、屈斜路湖、硫黄山など数多くの景勝地に恵まれた地区である。

川湯温泉街は、湯治場として発展してきた経緯があるが宿泊客の減少が続き地区内の大規模ホテルも廃業や休館などが相次ぎ、宿泊地としての競争力の回復について取り組むことが急務となっている。

今回、国の国立公園満喫プロジェクトで阿寒摩周国立公園が事業地区として指定されたこと、また、てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想の認定を受けたことから今後の川湯温泉地区景観整備構想を策定する。

(2) 対象範囲

川湯温泉市街地にある足湯を中心に川湯温泉街を形成する宿泊施設、料飲店が所在する地区を対象とする。

対象範囲



2. 与条件の確認・整理

(1) 上位計画

① 弟子屈町総合計画

弟子屈町のまちづくりについては、平成24年3月に弟子屈町の最上位計画として第5次総合計画が策定され、計画期間は平成24年度から平成33年度までとなっている。

まちづくりの基本目標としては、「水と森と人が共に輝き。活力あふれる自立したまち」を目指し、本町の豊かな自然環境に代表されるものとして「水」と「森」を守っていくこと。「自立したまち」に向けて各種産業振興や育成、起業支援など雇用の創出・確保の構築に重点をおくこと。「人」材育成と「人と人」との関わりに重点を置くことで地域が輝くものであることをコンセプトとして各種の取り組みを持続的、戦略的に実施、発信していくこととしている。

② てしかが・まち・ひと・しごと創生戦略

人口急減・超高齢化という我が国が直面する大きな課題に対し政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生するため、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定された。

それを受け、平成27年から31年の5ヵ年の弟子屈町における政策目標・施策を掲げた「まち・ひと・しごと創生戦略」が策定された。

創生戦略においては、観光と農業を柱とした地域活性化の推進として、観光面では、自然環境の適正な保護と活用の推進としてエコツーリズムの推進や本町でも増加しているインバウンド観光に取り組むとともに、産業による生産物の高付加価値化や新たな特産品の開発をすすめ、てしかが版DMOの推進による産業の振興や連携を図ることとしている。

また、本町では、温泉熱や地熱、雪氷冷熱などの自然エネルギー、家畜ふん尿などのバイオマス資源を有していることから、これらも活用しながら企業振興をすすめ、就労場所の確保と拡大を目指し、産業やまちづくりの担い手となる人材の確保や育成を進めて行くこととしている。

(2) 関連計画

① 弟子屈町土地利用計画

主に町内における利用目的が定められていない地域について、今後どのように土地利用を進めて行くか方針を定めた計画。平成29年3月に策定された。

川湯地区については、中心市街地地区として整理されており、「市街地部での景観誘導」や「屋外広告物のコントロール」、「廃屋対策」などが解決すべき課題とされており、重点項目として廃屋や管理不全の屋外広告物について必要な措置を進めて行くこととされている。

(3) 自然条件

弟子屈町は、千島火山帯に属する高原地帯であり、世界有数の透明度を誇る摩周湖や日本最大規模のカルデラ湖である屈斜路湖をはじめ、多くの景勝地が存在し、自然環境には大変恵まれた景勝地が存在している。

川湯温泉市街地は、かつて硫黄採掘量で道内一を誇っていた硫黄山と屈斜路湖の間に位置し、さまざまな土地である。

川湯温泉は、硫黄山の地中から育まれた酸性泉があり泉質についても高い評価を経ており、また、アカエゾマツ林などの豊かな自然に恵まれ、川湯市街地から硫黄山までは、高山性のハイマツやイソツツジ群落となっている。

(降水量と平均気温関係)

(4) 人文・社会条件

① 歴史、文化

川湯温泉は、アイヌ語の「セセキペツ」が語源となっており、「湯の川温泉」とすべきであったが既に函館に同名の地名がありやむなく「川湯温泉」と命名したと言われている。

川湯温泉の湯は、硫黄山の硫気孔を源として流下し、川湯温泉付近で湧出しており、地下わずか20メートル程度の浅いところで最高65度の温泉源があり、泉質は強酸性硫化水素泉、PHで示すと2.0以下で湯量も豊富となっている。

明治30年代から大正10年までは湯治旅館1軒きりであったが、昭和9年、阿寒国立公園指定を機に急速に発展し、現在の川湯温泉が形成されていった。

また、むかしは、硫黄が重要資源であったため、明治10年頃から硫黄の採掘が始まり、明治20年には硫黄山と標茶間に北海道で2番目となる鉄道が敷設され現在の釧網本線の基礎となっている。

川湯温泉は、第48代横綱で国民栄誉賞を受賞されている大鵬幸喜氏の出身地としても知られ、温泉街には「大鵬相撲記念館」が建てられており、32回の優勝額が館内に飾られているとともに北海道出身の歴代横綱なども紹介されている。

(5) 観光資源及び利用施設の概況

① 観光資源等

名 称	概 要
摩周湖	<p>弟子屈町から11km、川湯温泉から12kmにあり、湖面は海拔351m、周囲約20km、面積19.2平方キロメートル、最深211.4mの世界でも一級の透明度を誇るカルデラ湖。2001年には北海道遺産に認定された。</p> <p>注ぎ込む川も流れ出る川もない閉鎖湖ではあるが、年間を通じて水位の変動が少ない。そして、太平洋上を北上する暖かく湿った空気が急激に冷やされてカルデラの中にたまり、湖面を霧で覆い隠すことから「霧の摩周湖」とも呼ばれている。また、不純物をほとんど含まない湖水は、藍を流したかのような独特の深い青で「摩周ブルー」とも言われている。</p>
屈斜路湖	<p>川湯温泉の西2.1kmにあり、周囲57km、面積79.3平方キロメートル、最大深度117.5mの日本で6番目（カルデラ湖では1番）の大きさを誇るカルデラ湖。さらに、湖心に浮かぶ中島は、淡水湖内では日本一大きい島で、周囲12km、面積5.7平方キロメートルもある。</p> <p>また、屈斜路湖はキャンプ、ヨットやウィンドサーフィンなどのウォータースポーツ、フィッシング、温泉浴などで賑わうリゾート地としての顔をもっている。</p> <p>冬期間は全面凍結するが、地熱が高く一部解氷部分ができることから、毎年400～500羽のオオハクチョウが越冬のために飛来する。</p>
釧路川	<p>屈斜路湖を源に流れ出す唯一の川で、市街地を南に流れ、下流部では釧路湿原の中を通る。高低差が少ないため、一級河川としては珍しくダムが設置されていない（他に本流にダムが設置されていない一級河川は四万十川と長良川のみ）。</p> <p>原始河川である釧路川は、カヌーイストやアングラーたちの聖地としても知られており、夏から秋にかけてのカヌーシーズンになると、多くのカヌーイストたちが雄大な自然を求め訪れる。</p>
アトサヌプリ（硫黄山）	<p>アイヌ語でアトサ（裸）ヌプリ（山）と呼ばれる、川湯温泉から約3キロに位置する硫黄山は、現在でも硫黄の噴煙が各所から立ち上る活火山である。</p> <p>標高512mの硫黄山は現在、落石の危険性があることから登山者の安全を考慮して立ち入り禁止となっている。山の中腹には「熊落とし」と呼ばれている深さ約50mにもなる火口跡があり、アイヌ人がこの崖に熊を追い落としたことからこの名前がついたと言われている。</p>

名 称	概 要
大 鵬 相 撲 記 念 館	<p>不滅の名横綱と称えられた第48代横綱大鵬が、少年時代を過ごした川湯温泉に位置する博物館。</p> <p>優勝32回、そのうち全勝優勝8回、六場所連続優勝は2回、連勝記録は双葉山（69連勝）に次ぐ45連勝という、相撲史上に数々の金字塔を打ち立てた大鵬の偉業を後世に伝えている。</p> <p>館内は、全ての優勝額や化粧廻し、少年時代からの写真などを展示している展示ホールと、名勝負・名場面などを映した記録映画を上映している映写室で構成されている。</p>
川 湯 エ コ ミ ュ ー ジ ア ム セ ン タ ー	<p>自然と人間との繋がりを考え体験することを目的とした、施設とフィールドが一体となった施設。自然とその自然に育まれた文化をそのままに、街全体がきたままの博物館となっており、自然を五感で体験することができる。</p> <p>館内は広々としたオープンスペースとなっており、暖炉のあるラウンジでアカエゾマツの森を眺めながら読書したり、クラフトコーナーで自然の素材を用いたクラフトを行ったりすることができる。また、2階にはギャラリーとなっており、創作活動の発表の場として活用されている。</p>
露 天 風 呂 (コ タ ン の 湯)	<p>和琴半島と砂湯を結ぶ道路沿いにある露天風呂。温泉の名称は古丹（コタン。アイヌ語で「村」の意）に由来する。</p> <p>泉質は炭酸水素塩泉。24時間無料で入浴が可能な、源泉かけ流しの露天温泉である。</p> <p>屈斜路湖までの距離はわずか5メートルで、入浴すると湖面と目線がほぼ同じ高さとなる。冬には越冬のために飛来したオオハクチヨウを見ながら入浴することも可能。</p>

② アクセス動線

川湯温泉街地区へは、釧路市と網走市を結ぶ国道391号線や根室市から網走市を結ぶ国道243号線からそれぞれ道道52号線を経由して結ばれている。また、国道241号線は国道391号線に接続されており、阿寒湖畔地区や中標津、根室方面からのアクセスも整備されている。

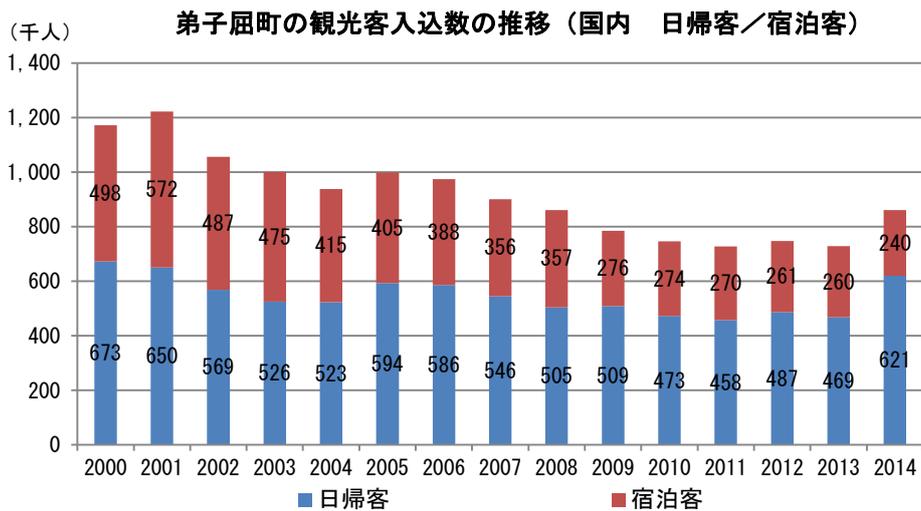
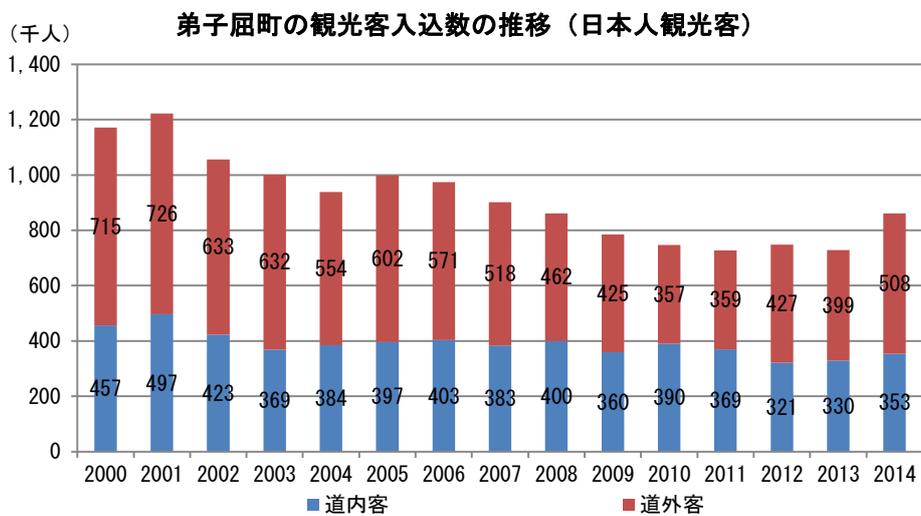
また、JR釧網本線を利用し、「川湯温泉駅」下車で川湯温泉地区にはJRの到着時刻と連動した路線バスが運行されている。

③ 利用者

1) 観光入込客数

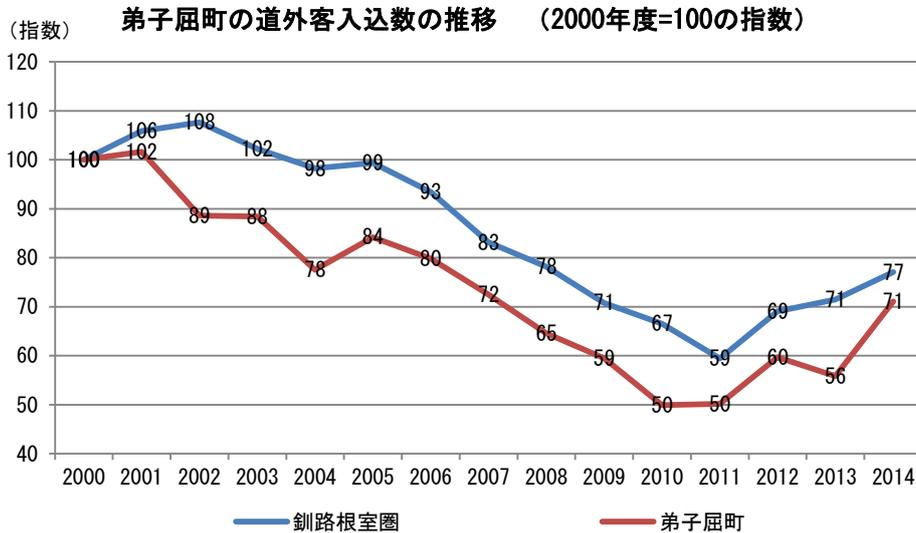
弟子屈町における日本人観光入込客数の推移をみると、道内客は2012年ごろまで、道外客は2010年ごろまで減少傾向にあったが、以降は緩やかに増加している。

また、日帰客と宿泊客の別でみると、日帰客は2011年ごろまで減少していたが、以降は徐々に増加している。一方、宿泊客は増加に転じることなく、徐々に減少している。



※「北海道観光入込客数調査報告書 平成12～平成26年度」（北海道）

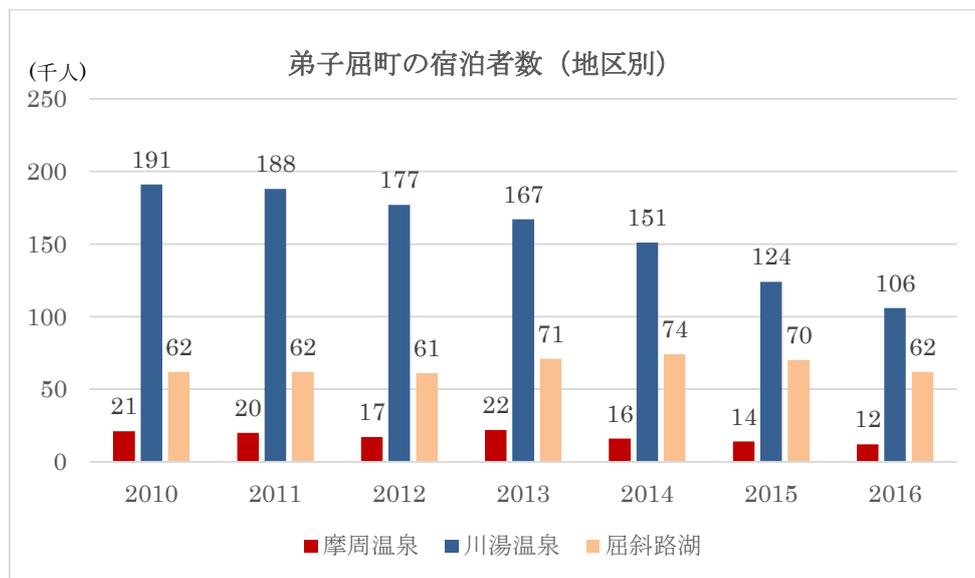
弟子屈町の道外客入込数をみると、2011年ごろまで減少していたが、以降は徐々に増加しており、2014年度においては2000年度の7割ほどの水準となっている。



※「北海道観光入込客数調査報告書 平成12～平成26年度」(北海道)

2) 宿泊者数

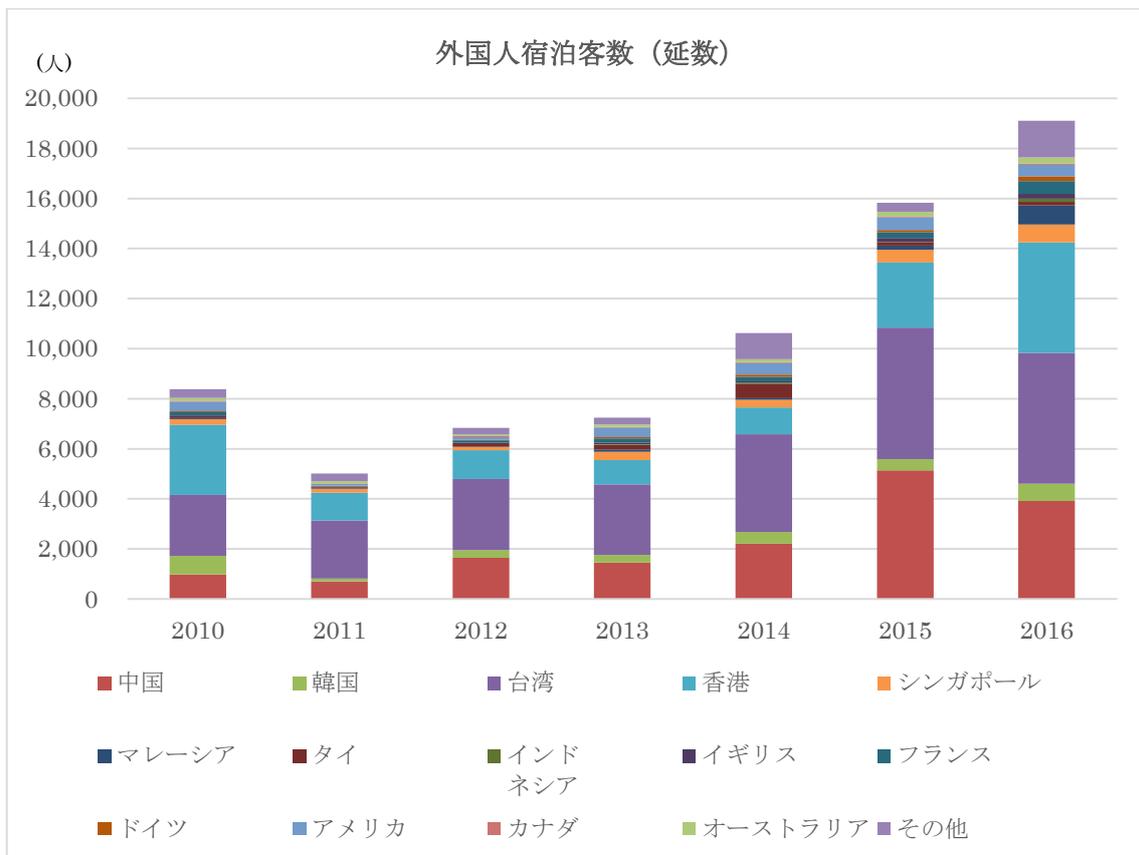
弟子屈町の宿泊者数を地区別で見ると、町内の全ての地区で宿泊者数は減少しているが、特に川湯温泉地区の宿泊者数の減少が大きく、2010年と2016年と比較すると、約半分になっている。屈斜路地区については、大きく宿泊者数の変動はないが、全町的に2016年は台風の影響による風評被害も宿泊客減少の要因と考えられる。



※「北海道観光入込客数調査報告書 平成12～平成26年度」(北海道)

弟子屈町の外国人観光客宿泊客延べ数をみると、これまでは台湾や香港からの観光客が多かったが2008年度ごろから徐々に減少している。一方、2008年ごろより中国からの観光客が増加しており、国別では台湾に次いで2番目に多い数となっている。

平成26年以降、約5千人程度の来訪客数の増加となっており、香港、マレーシア、フランスからの宿泊客数が伸びている。



※「北海道観光入込客数調査報告書 平成12～平成26年度」（北海道）

3) 施設整備状況

施設名	規模	整備状況等
川湯エコミュージアムセンター	建築面積 延床面積 693.43㎡	平成11年に完成し、温泉街の森の中に位置する。国立公園内の川湯、摩周地域の自然に関する情報発信基地となっている
川湯ふるさと館	建築面積 延床面積 642.46㎡	平成13年に完成。会議室、調理実習室のほかに本格的なチーズ加工室も併設。
大鵬相撲記念館	建築面積 延床面積 543.7㎡	昭和59年3月完成。川湯温泉出身の横綱大鵬を記念した資料館。
川湯屋内温水プール	建築面積 延床面積 1,437.51㎡	昭和55年3月完成。競泳用25m6コースと児童用プールを併設
川湯農村センター	建築面積 延床面積 388.2㎡	平成元年12月に完成。
川湯青少年会館	建築面積 延床面積 1226.54㎡	昭和48年に完成。バスケットボールコート2面分の広さでステージも整備されている。
川湯屋内ゲートボール場	延床面積 986㎡	平成元年に完成。利用者のニーズにより雨天時でも利用できる施設を整備

3. 川湯温泉地区景観整備構想

(1) 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトにおける地区の位置づけ

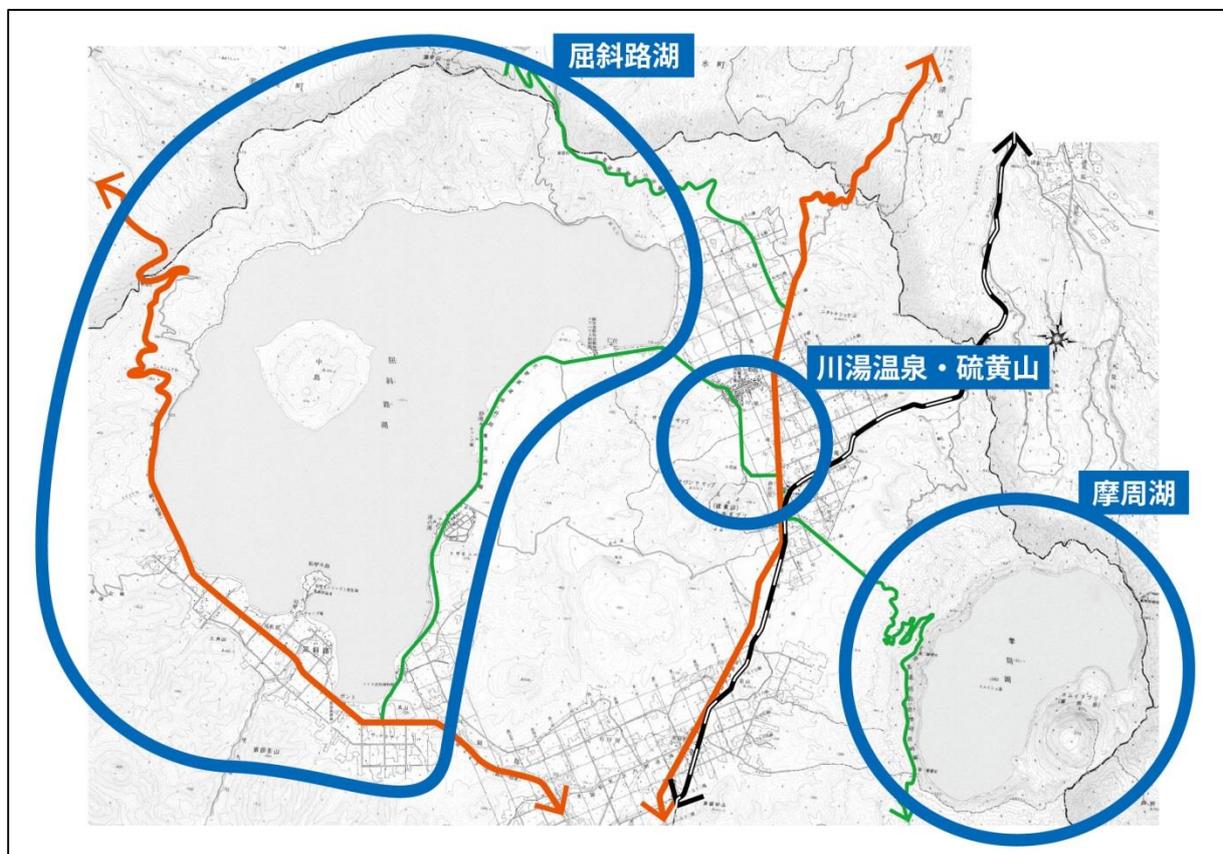
阿寒摩周国立公園満喫プロジェクトにおいて、弟子屈町のビューポイント（重点取組地域）は川湯温泉・硫黄山、屈斜路湖、摩周湖の3地域が位置づけられており、ビューポイントにおける事業内容はそれぞれ以下の通りとなっている。

① 各ビューポイント（重点取組地域）共通事項

ア) 多様なサービスの提供のための民間活用

- ・川湯温泉・硫黄山、摩周湖、屈斜路湖における適切な利用を推進するためのあり方について、必要な施設の観点も含めた検討を進め、全体構想等としてとりまとめ
- ・利用者の多様なニーズに応えられるガイド育成を含めたガイド組織等の確立に向け、「てしかがスタイルのエコツーリズム推進全体構想」を踏まえ検討
- ・全体構想等を踏まえ、具体的なツアー・プログラムの開発・実施

弟子屈町のビューポイント（重点取組地域）



② 川湯温泉・硫黄山

ア) 多様なサービスの提供のための民間活用

- ・川湯エコミュージアムセンターにおけるカフェやツアーデスクの併設など民間開放のあり方を検討
- ・川湯温泉街における富裕者層をターゲットとした宿泊施設の誘致の可能性を検討
- ・全体構想等を踏まえ、川湯エコミュージアムセンター周辺や旧川湯スキー場跡地、硫黄山周辺等を活用した通年アクティビティー等の開発・実施
- ・硫黄山における駐車場利用協力金について、硫黄山の魅力向上のための用途等を検討

イ) まちなみ等の景観改善

- ・川湯温泉街のまちなみ景観について「森の中にある温泉街」をコンセプトとした改善手法（廃業した宿泊施設及び土産店等の撤去方法を含む）を検討し、自然滞在型の温泉保養地（ネイチャーリゾート）へ再生

ウ) 質の高い利用環境を提供するための施設整備等

- ・川湯集団施設地区の整備基本計画のとりまとめ
- ・整備基本計画に基づき、川湯園地内の歩道の再整備、川湯エコミュージアムセンターの再整備、多言語に対応した解説看板や標識の整備等を実施
- ・つつじヶ原探勝路の再整備、多言語に対応した解説看板や標識の整備等を実施
- ・道道屈斜路摩周湖畔線について、歩道の整備及び歩道柵の再整備を実施

③ 屈斜路湖

ア) 多様なサービスの提供のための民間活用

- ・全体構想等を踏まえ、美幌峠の雲海のツアー・プログラムの開発・実施、ガイドの育成
- ・全体構想等を踏まえ、釧路川へのカヌーツアー、コタン地区におけるアイヌの思想・精神に沿ったツアー・プログラム等の開発・実施

イ) まちなみ等の景観改善

—

ウ) 質の高い利用環境を提供するための施設整備等

- ・和琴集団施設地区の整備基本計画のとりまとめ
- ・整備基本計画に基づき、和琴園地内の歩道やキャンプ場の再整備、多言語に対応した解説看板や標識の整備等を実施
- ・砂湯野営場の再整備等を実施
- ・美幌峠園地の再整備等を実施
- ・「道の駅ぐるっとパノラマ美幌峠」のレストハウスにおいて、多言語に対応した解説看板や標識、情報発信のための情報端末機器等の整備、美幌峠の景

観を楽しみながら休憩できる環境の整備を実施

- ・コタン地区における公衆トイレの改修等について検討
- ・釧路川へのカヌー利用の状況等を踏まえ、スタート地点となる釧路川源流部における整備等のあり方を検討し、その結果を踏まえ整備等を実施

③ 摩周湖

ア) 多様なサービスの提供のための民間活用

- ・摩周第1展望台へのカフェの併設など民間開放のあり方を検討
- ・全体構想等を踏まえ、摩周カルデラ北部外輪山及びその山麓域における利用のあり方を検討し、具体的なツアー・プログラムを開発
- ・摩周湖における駐車場利用に係る協力金について、摩周湖の魅力向上のための用途等を検討

イ) まちなみ等の景観改善

—

ウ) 質の高い利用環境を提供するための施設整備等

- ・民間開放のあり方の検討状況を踏まえつつ、摩周第1展望台、摩周第3展望台、裏摩周展望台の再整備等のあり方を検討し、その結果を踏まえ再整備等を実施
- ・摩周第一園地の公衆トイレの改修等を実施
- ・摩周岳や西別岳に至る登山道について、維持管理等を実施

(2) 川湯温泉地区の現状と課題

川湯温泉地区においては、宿泊客の減少により宿泊施設の休廃業が相次ぎ、中には倒壊や壁、屋根の崩落などの恐れがある危険な状態になっている施設があり、景観上も問題であり、温泉街に寂れた印象を与えている。

さらに休業期間の長期化により、施設の再活用が困難になりつつある施設も多い。

宿泊施設の休廃業により温泉街の人の流れが分断されるとともに、宿泊客の減少に伴い空き家・空き店舗が増加、飲食店街や土産店等通りの活力が低下し、温泉街としての魅力や賑わいが失われている。

川湯温泉は泉源が浅く、湯の川が流れる全国的にも珍しい温泉であるが、源泉からの給湯管類が無造作に放置され、源泉景観が雑然とした印象となっている。

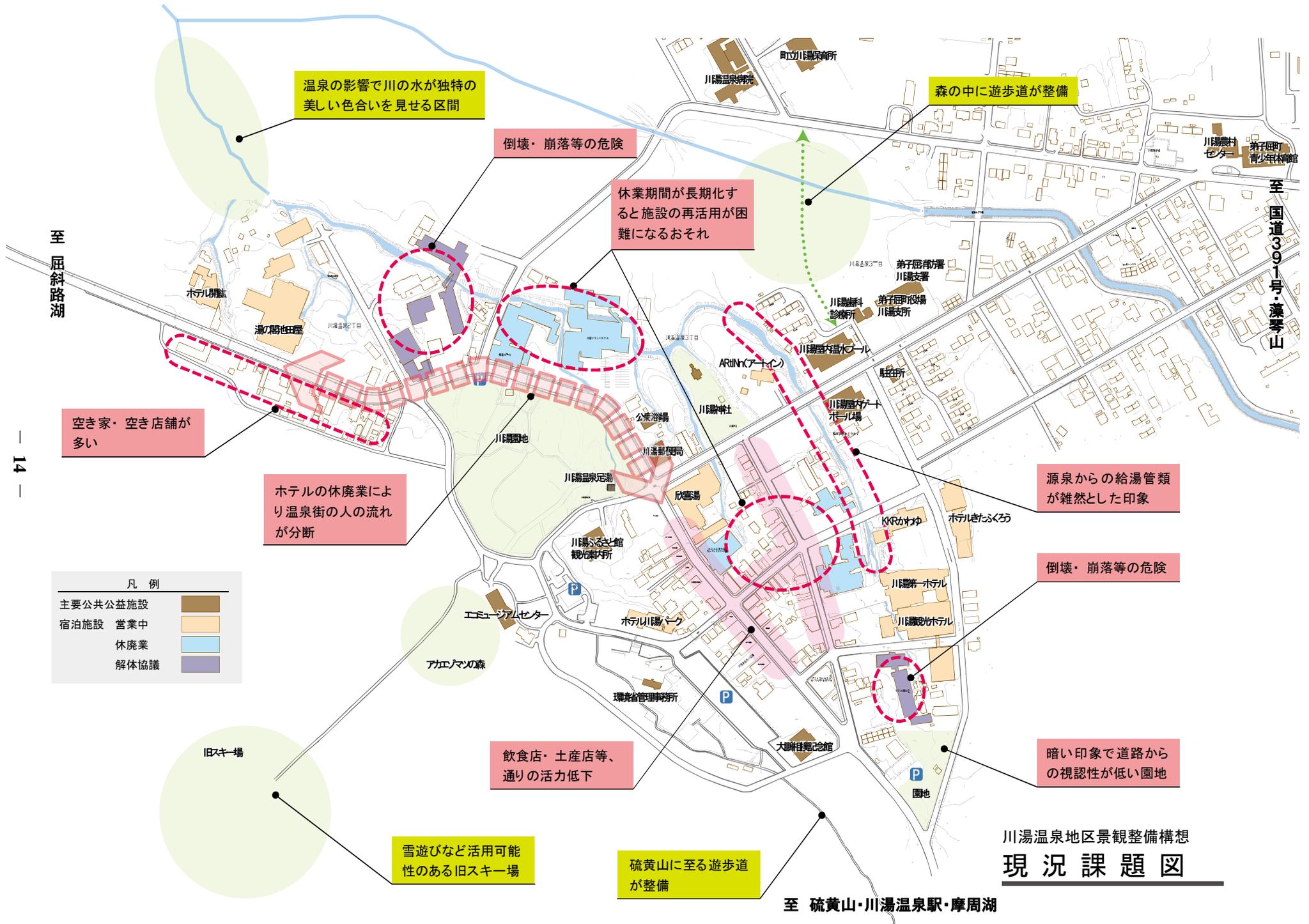
川湯温泉街の導入部分については、屈斜路湖側から来ると、廃屋となった空き家・空き店舗が建ち並んでおり、印象がよくない。また、硫黄山側からは、国立公園の園地があるが、暗い印象で道路からの視認性も低く、川湯温泉街に訪れたという印象を与える空間や景観がない状況にある。

一方、周囲を森に囲まれた川湯温泉は、自然環境に恵まれている。温泉街の中央には自然散策路が整備された川湯園地があり、足湯も設置されている。また川湯エコミュージアムセンターからはつつじヶ原・硫黄山へと至る遊歩道が整備されている。ここは、硫黄山の火山の噴気孔の影響による植生の変化が楽しめる遊歩道であり、川湯温泉を出発すると、針葉樹帯から始まりつぎに広葉樹林帯、イソツツジ帯そしてハイマツ帯へと変化していくさまがはっきりと分かる。

弟子屈町役場川湯支所付近から川湯温泉病院に至る森の中にも遊歩道が整備され、森の中の小川の景観が楽しめる。

ホテル開紘から少し奥の森の中には、温泉の影響で川の水がエメラルドグリーンのような独特の美しい色合いを見せる区間があり、遊歩道等を整備することにより、景観スポットとして活用が可能である。

川湯エコミュージアムセンターからアカエゾマツの森を抜けると、旧川湯ヌプスキー場の跡地があり、雪遊び空間等としての活用可能性がある。



温泉の影響で川の水が独特の美しい色合いを見せる区間

森の中に遊歩道が整備

倒壊・崩落等の危険

休業期間が長期化すると施設の再活用が困難になるおそれ

空き家・空き店舗が多い

ホテルの休廃業により温泉街の人の流れが分断

源泉からの給湯管類が雑然とした印象

倒壊・崩落等の危険

暗い印象で道路からの視認性が低い園地

凡例

主要公共公益施設	茶色
宿泊施設 営業中	オレンジ
休廃業	青
解体協議	紫

雪遊びなど活用可能性のある旧スキー場

硫黄山に至る遊歩道が整備

川湯温泉地区景観整備構想
現況課題図

至 硫黄山・川湯温泉駅・摩周湖

(3) 整備方針

① 危険廃屋の解体撤去

- ・休廃業ホテルのうち、倒壊や崩落の危険性が高い施設については、町が取得するなどして解体撤去を推進する。
- ・また廃屋となっている空き家・空き店舗の物件についても、所有者と協議のうえ、解体撤去を推進し、景観改善を図るとともに、地区の特性に応じて広場・交流空間の整備等を図る。

② ゲート空間の整備

- ・硫黄山・摩周湖側からの玄関口にあたる園地については、ゲート空間として再整備を推進する。
- ・屈斜路湖側からの玄関口としては、旧華の湯を解体撤去した跡地にゲートとしての広場空間を整備するとともに、湯の閣やホテル開紘に面する廃屋となっている空き家・空き店舗の解体撤去により景観改善を図り、ゲート空間としての修景に取り組む。

③ 休廃業ホテルの再生・新たな宿泊施設の誘致、温泉街の活性化

- ・休廃業ホテルについては、建物を使用しない期間が長くなるほど、廃屋化が進行するため、所有者と協議のうえ、新たな宿泊施設の誘致を図るとともに、施設の再生や建替、解体撤去等の支援方策についても検討を進める。
- ・飲食店や土産店の集積を高め、温泉街の活性化を図り賑わいを取り戻していくため、宿泊施設の誘致とあわせて、新規起業支援などにより、温泉街の通りの活性化を推進する。

④ 魅力ある温泉市街地の景観形成

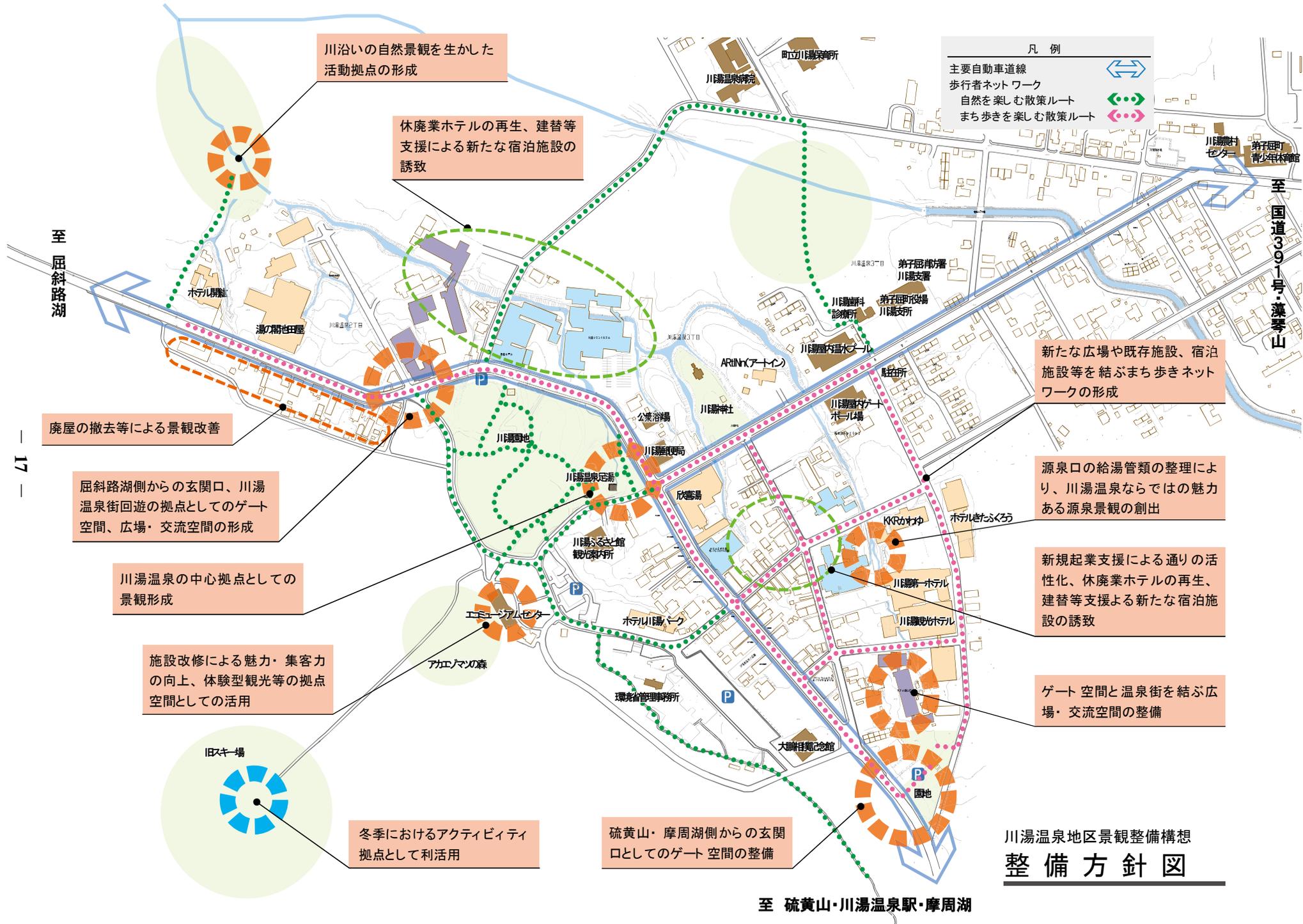
- ・川湯園地は、美しい森の中に遊歩道が整備されており、春先の淡い新緑、夏の豊かな緑、秋の鮮やかな紅葉、冬の青空に映える樹氷など年間を通じて自然の美しさを楽しむことができる。また園地にある足湯は温泉街のほぼ中心に位置しており、四季それぞれの園地の恵まれた自然環境を生かしながら、湯の川からの湯けむりなど年間を通じて温泉街としての魅力ある景観演出を図る。
- ・源泉口については、給湯管類の整理により、川湯温泉ならではの魅力ある源泉景観の創出を図るとともに、川湯温泉の成り立ちなどを伝える空間としても整備を図る。

⑤ アクティビティ空間・拠点の整備

- ・川湯エコミュージアムセンターは、施設の改修によって魅力・集客力の向上を図るとともに、体験型観光等の拠点空間として活用を推進する。
- ・旧スキー場は、冬季におけるアクティビティ拠点として利活用を推進する。
- ・ホテル開紘奥の森の中に川沿いの魅力ある自然景観を楽しめる広場空間の整備を推進する。

⑥ 魅力あるまち歩きネットワーク・自然散策ネットワークの形成

- ・新たな広場や宿泊施設等を結ぶ通りについては、沿道空間の清掃、雑草の除去など日常から気持ちよく歩けるよう地域で取り組むとともに、プランターの設置やライトアップなどの修景により魅力あるまち歩きネットワークを形成する。
- ・既存の遊歩道や川沿いへの新たな遊歩道の整備など、豊かな自然環境を楽しむことができる自然散策ネットワークの形成、整備を推進する。



凡例

主要自動車道線	
歩行者ネットワーク	
自然を楽しむ散策ルート	
まち歩きを楽しむ散策ルート	

川沿いの自然景観を生かした活動拠点の形成

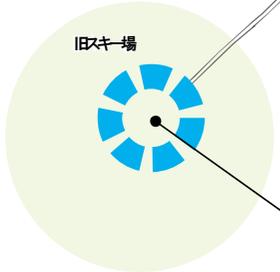
休廃業ホテルの再生、建替等支援による新たな宿泊施設の誘致

廃屋の撤去等による景観改善

屈斜路湖側からの玄関口、川湯温泉街回遊の拠点としてのゲート空間、広場・交流空間の形成

川湯温泉の中心拠点としての景観形成

施設改修による魅力・集客力の向上、体験型観光等の拠点空間としての活用



冬季におけるアクティビティ拠点として利活用

硫黄山・摩周湖側からの玄関口としてのゲート空間の整備

新たな広場や既存施設、宿泊施設等を結ぶまち歩きネットワークの形成

源泉口の給湯管類の整理により、川湯温泉ならではの魅力ある源泉景観の創出

新規起業支援による通りの活性化、休廃業ホテルの再生、建替等支援による新たな宿泊施設の誘致

ゲート空間と温泉街を結ぶ広場・交流空間の整備

川湯温泉地区景観整備構想 整備方針図

至 硫黄山・川湯温泉駅・摩周湖

(4) 整備構想

整備方針を踏まえ、今後川湯地区において取り組む内容を以下のように整理した

① 短期的な取り組み

1) 旧華の湯ホテル跡地園地整備

屈斜路湖方面からのゲート広場、湯けむりのあがる集いの場

- 旧ホテルの泉源を活用した、湯の泉
- 川湯温泉地区中心部・エコミュージアムセンターの結節点にゲート・モニュメント
- くつろぐテラス・出店スペース（屋台・ケータリングカー）

2) 泉源の空間整備

温泉らしい眺めを楽しむ空間

- 雑然とした管類の整理
- 川湯温泉の由来など情報パネルの整備

3) ネイチャートレイルの整備

泉源～町道 川沿いの歩行空間の整備

道道～川沿いの小広場

- 下草刈りなど地域によるルート整備
- 川沿いの魅力ある自然景観を楽しめる小広場の整備（中長期）
- 橋梁のうえに安全・快適に滞留できるスペースの確保
- 周囲の建物にテラスなど、川に向けた空間を整備

4) エコミュージアムセンターの改修

- WiFi利用環境の整備
- カフェ・ツアーデスクの併設など
- 馬車乗り場の整備

5) 温泉地らしさの演出

- 豊富な湯量を活かした湯けむり景観の演出

6) 旧スキー場跡地の活用

- 冬期のアクティビティメニューの活動拠点のひとつとして活用

② 中期的な取り組み

1) 既存園地の再整備

硫黄山方面からのゲート広場

- ゲートモニュメントなど既存駐車場の視認性向上
- 隣接する商店との歩道の整備
- 既存の園地の景観向上（剪定・草刈り頻度の増加、舗装部の増設など）

2) 旧ホテル湖山荘跡地園地整備

園地に隣接し、ホテル方面との連絡経路として

- 泉源の修景
- 園地・駐車場とホテル方面をむすぶ散策路
- くつろぐテラス・出店スペース（屋台・ケータリングカー）

3) 旧川湯プリンスホテル跡地園地整備

将来的な宿泊施設のリザーブ用地を緑地に

- 用地の暫定活用として緑化

4) ネイチャートレイルの整備

湯富・イン～川湯屋内ゲートボール場

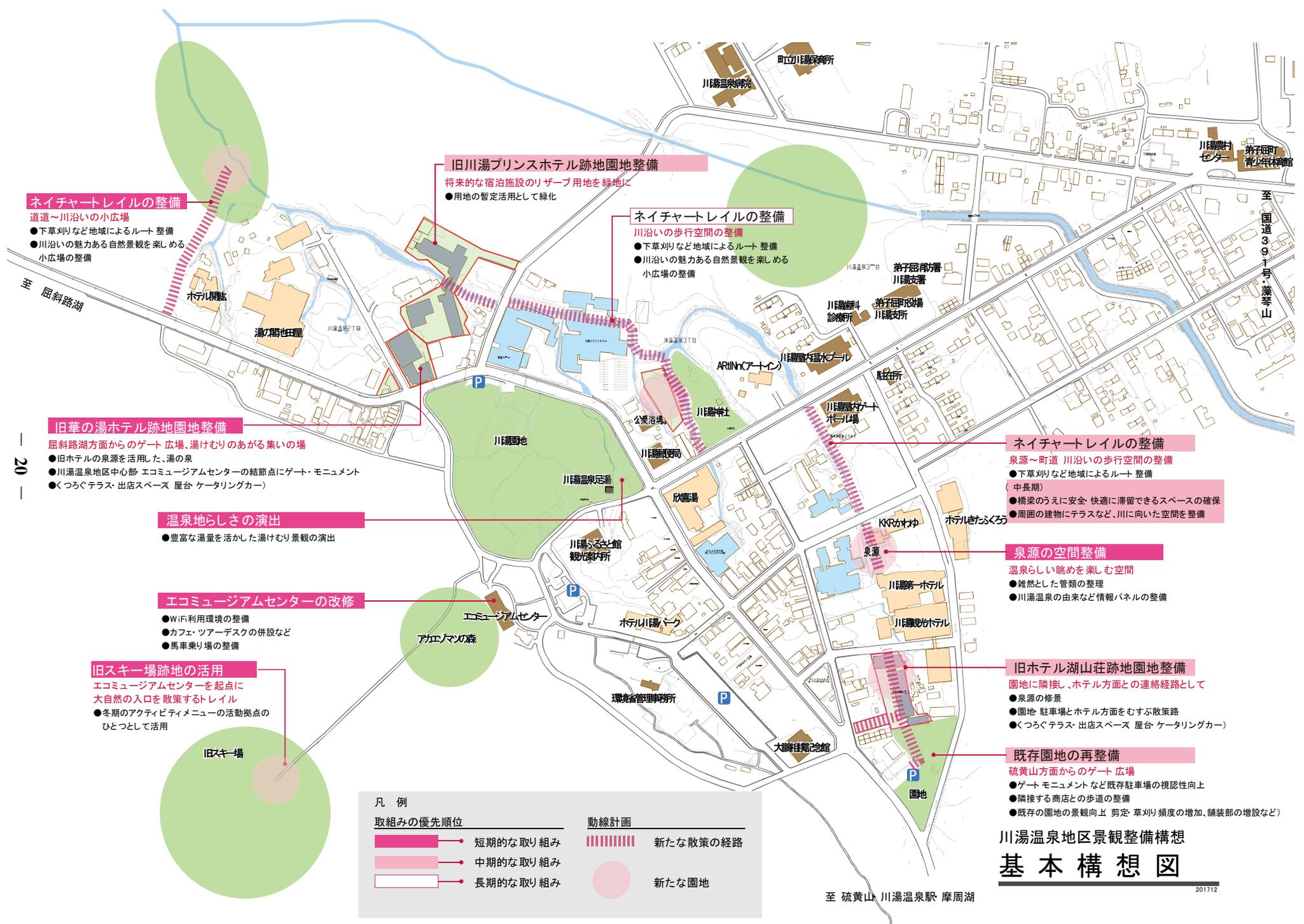
- 下草刈りなど地域によるルート整備

③ 長期的な取り組み

1) ネイチャートレイルの整備

川湯神社～旧川湯プリンスホテル

- 下草刈りなど地域によるルート整備
- 神社の景観を生かした修景園地の整備



ネイチャートレイルの整備
 道道～川沿いの小広場
 ●下草刈りなど地域によるルート 整備
 ●川沿いの魅力ある自然景観を楽しめる小広場の整備

旧川湯プリンスホテル跡地園地整備
 将来的な宿泊施設のリザーブ用地を緑地に
 ●用地の暫定活用として緑化

ネイチャートレイルの整備
 川沿いの歩行空間の整備
 ●下草刈りなど地域によるルート 整備
 ●川沿いの魅力ある自然景観を楽しめる小広場の整備

旧華の湯ホテル跡地園地整備
 屈斜路湖方面からのゲート 広場、湯けむりがある集いの場
 ●旧ホテルの泉源を活用した、湯の泉
 ●川湯温泉地区中心部 エコミュージアムセンターの結節点にゲート・モニュメント
 ●くつろぐテラス・出店スペース 屋台・ケータリングカー

温泉地らしさの演出
 ●豊富な湯量を活かした湯けむり景観の演出

エコミュージアムセンターの改修
 ●WiFi利用環境の整備
 ●カフェ・ツアーデスクの併設など
 ●馬車乗り場の整備

旧スキー場跡地の活用
 エコミュージアムセンターを起点に
 大自然の入口を散策するトレイル
 ●冬のアクティビティメニューの活動拠点のひとつとして活用

ネイチャートレイルの整備
 泉源～町道 川沿いの歩行空間の整備
 ●下草刈りなど地域によるルート 整備
 (中長期)
 ●橋梁のうえに安全 快適に滞留できるスペースの確保
 ●周囲の建物にテラスなど、川に向けた空間を整備

泉源の空間整備
 温泉らしい眺めを楽しむ空間
 ●雑然とした管類の整理
 ●川湯温泉の由来など情報パネルの整備

旧ホテル湖山荘跡地園地整備
 園地に隣接し、ホテル方面との連絡経路として
 ●泉源の修景
 ●園地 駐車場とホテル方面をむすぶ散策路
 ●くつろぐテラス・出店スペース 屋台・ケータリングカー

既存園地の再整備
 硫黄山方面からのゲート 広場
 ●ゲート モニュメントなど既存駐車場の視認性向上
 ●隣接する商店との歩道の整備
 ●既存の園地の景観向上 剪定・草刈り頻度の増加、舗装部の増設など

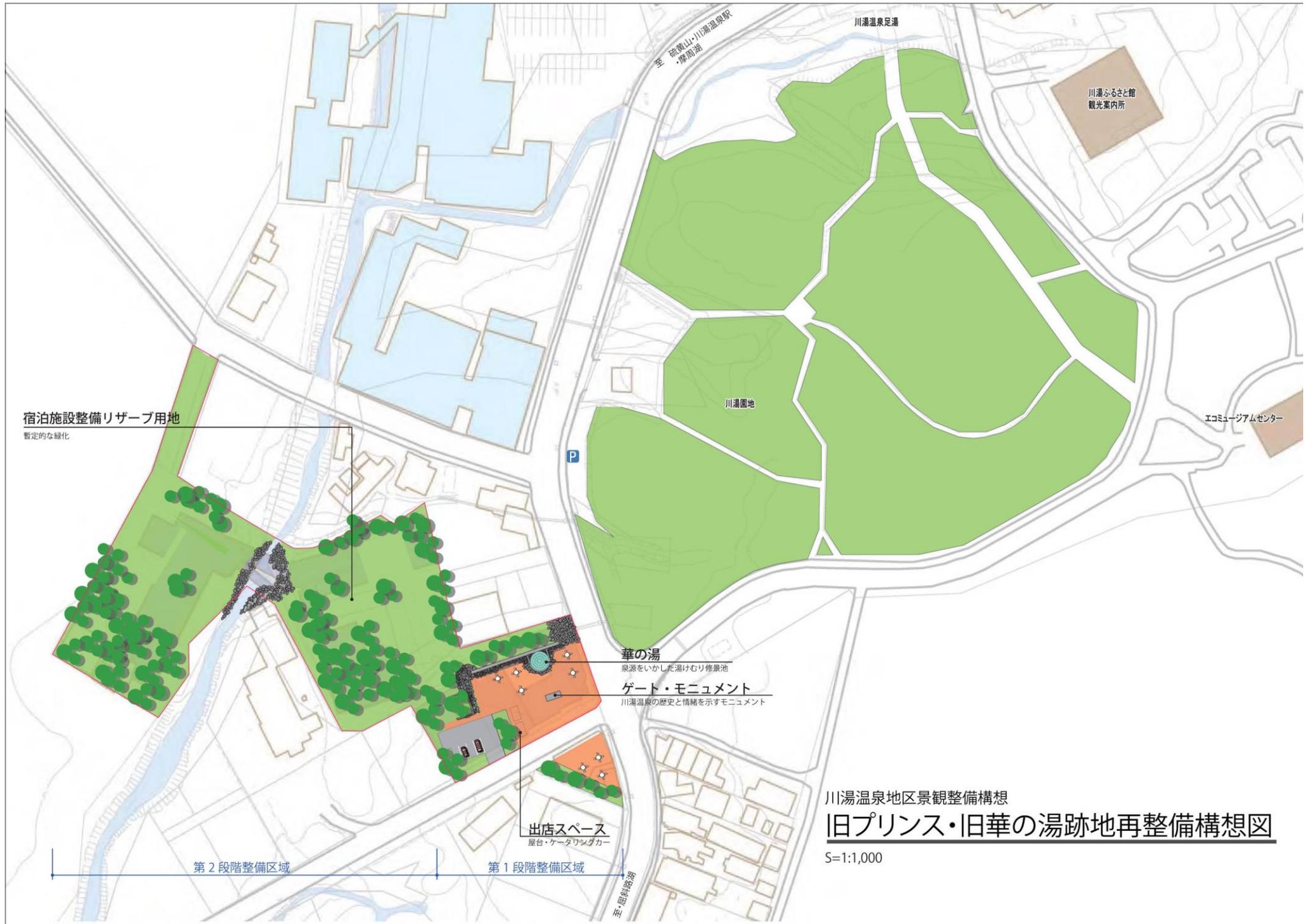
凡例

取組みの優先順位	動線計画
短期的な取組み	新たな散策の経路
中期的な取組み	新たな園地
長期的な取組み	

川湯温泉地区景観整備構想 基本構想図



川湯温泉地区景観整備構想
旧湖山荘跡地再整備構想図
S=1:1,000



【参考】ゲートモニュメントの一例

